

水溶液型銀系抗菌剤・抗ウイルス加工剤

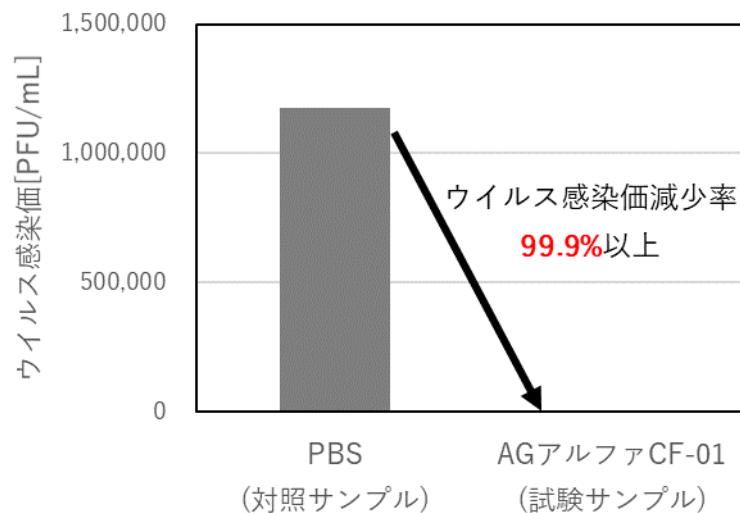
AG アルファ[®] CF-01

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）への抗ウイルス効果

1. 試験概要

(1) 試験ウイルス	新型コロナウイルス（SARS-CoV-2） NIID 分離株：JPN/TY/WK-521 （宿主細胞：VeroE6/TMPRSS2）
(2) 試験サンプル	AG アルファ [®] CF-01 2%水溶液
(3) 試験条件	
ウイルス懸濁液：試験サンプル	0.1 : 10
作用温度	25°C
作用時間	2 時間
感染価測定方法	プラーク測定法
(4) 試験結果	ウイルス感染価減少率 99.9%以上

2 時間作用後のウイルス感染価



2. ウイルスに対する効果について

試験サンプル（AG アルファ®CF-01 の2%水溶液）に試験ウイルス懸濁液を2時間作用させた後、ウイルスの感染力（ウイルス感染価）をプラーク測定法で評価します。このとき、抗ウイルス成分を含まない対照サンプル（PBS）のウイルス感染価も同様にプラーク測定法で評価します。

対照サンプルのウイルス感染価と AG アルファ®CF-01 のウイルス感染価の差からウイルス感染価減少率を算出します。

2-1. 試験方法

- ① 試験サンプル 10 mL に試験ウイルス懸濁液 0.1 mL を加え、十分に攪拌後、25°C で2時間静置し、これを試験液とした。対照サンプルとして PBS を使用し、同様の操作を行った。
- ② 試験液中の AG アルファ®CF-01 を不活化処理した後に、プラーク測定法にて試験液 1 mL 当たりのウイルス感染価を算出した。
- ③ 対照サンプルと試験サンプルのウイルス感染価から、ウイルス感染価減少率を算出した。

2-2. 試験結果

検体		試験液 1 mL 当たりのウイルス感染価(PFU/mL)			対照サンプルとの常用対数値差
		常用対数		常用対数値平均値	
PBS (対照サンプル)	混合直後	n=1	6.40	6.33 (2,137,962) ^{※1}	—
		n=2	6.34		
		n=3	6.24		
	作用 2時間後	n=1	6.10	6.07 (1,174,898) ^{※1}	—
		n=2	6.04		
		n=3	6.06		
AG アルファ® CF-01 2%水溶液 (試験サンプル)	作用 2時間後	n=1	< 2.00	< 2.00 (< 100) ^{※1}	4.1
		n=2	< 2.00		
		n=3	< 2.00		

※1：自然数

2-3. 用語

PBS	リン酸緩衝生理食塩水。本試験で対照サンプルとして使用。
ウイルス感染価	ウイルスの感染能力をプラーク測定法で測定。1 mL あたりの感染能力を持つウイルス粒子数として表記。
ウイルス感染価減少率	対照サンプルのウイルス感染価と試験サンプルのウイルス感染価の差。
プラーク測定法	ウイルスに感染した細胞が変性することを利用したウイルス数の測定方法。

以上

※ 製品に関するお問い合わせ先

東京営業所 Tel. 03-5148-7131 Fax. 03-5148-9970
〒104-0044 東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー 17 階

大阪営業所 Tel. 06-6441-2414 Fax. 06-6441-4511
〒530-0005 大阪市北区中之島 6-2-57 味の素グループ大阪ビル 5 階

HOME PAGE : <http://www.j-chemical.co.jp/>

E-mail : jchem_AGalpha@j-oil.com